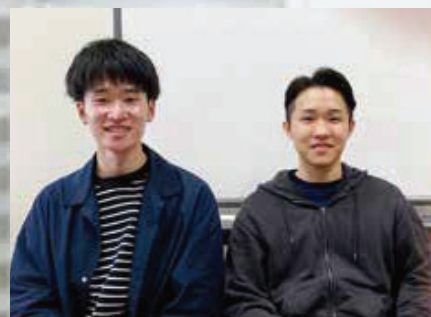


都市は創造の
積み重ねでできている

建築・都市環境コース
准教授

長谷川裕修



(左) 阿部哲也さん(創造工学部4年生)

研究テーマ: JICAパーソントリップ調査データを用いた
都市内交通に関する国際比較

(右) 吾郷泰紀さん(創造工学部4年生)

研究テーマ: 生活道路における交通安全に関する研究

詳細はwebで

都市や地域の暮らしを支える 交通に関する研究と教育

交通計画、交通安全、交通行動分析等、研究分野は多岐にわたります。最近ではウェアラブルデバイスを用いた歩行時の視覚的注意の分析や、子どもの交通安全教育にも力を入れています。地域の課題に寄り添いながら、持続可能で安全な交通社会の実現を目指しています。研究室では、交通安全、交通計画、国土管理に関する研究に取り組んでいます。人や街の行動や変化をデータで捉え、安全で持続可能な社会の実現に貢献します。また道路や実験室での実験で、視線や姿勢等の生体計測データを取得したり、AIやARを活用した交通安全教育にも取り組んでいます。

進行中のプロジェクト

「魔の7歳」問題解消に向けたゲーミフィケーション型ハザード知覚訓練の開発

リスクの高い小学校入学前後の児童・生徒を対象とした交通安全教育に、キャラクターメイキングや宝(キャラクタ)探しなどゲーム的な要素を組み入れることで、楽しみながら効果的な教育が可能となるのではないかと研究をしています。

渋滞発生予兆としての追従挙動カオス性検出による 渋滞抑制運動ゲーミフィケーション

高速道路サグ部(下り坂から上り坂へとさしかかるときの凸部)での渋滞対策として、車間を詰めず・安定した速度で走行すると渋滞発生確率が下げられることがわかっています。そのような運転をした場合に高得点が得られるようなゲーム性のある施策を提案したいと考えています。

続きはwebで

土木の道に進んだきっかけは、 高校時代のサッカー部



サッカー部の練習場は河川敷。自分たちが主力の代で、大雨によって2回もゴールポストや道具が流されてしまいました。先輩たちから「数年に一回はある」と聞いていたのですが、2回もあると「これではだめだ、どうにかしないといけない」と思いました。そういうことに取り組めるのが土木だと知って、土木が勉強できる大学に進みました。

ただ、土木を学び始めてすぐに、その河川敷のグラウンドが実は遊水地だったことが分かりました。河川の水が増えても街に水が流れないための遊水地だから、むしろ適切な働き。結果としてゴールポストや道具が流されていただけで、サッカーのグラウンドはおまけ。それで土木へのやる気を失い、留年。

学部4年目の夏休みに時間があって、バイク店の方から「日本縦断って面白いよ」と言われて旅へ。一人で北海道から鹿児島までを旅して、各地の風景や風土を見て、文化に触れて、いろんな方に親切にしてもらいました。人の優しさに触れ、暮らしを支える土木の大切さに改めて気づいてモチベーションが復活。そこから、もっと学びたいと思って大学院への進学も考え、今に至ります。